

裏面監査では安全は守れない!!

過日、支社内の研修において、「管理者より『乗客として乗車し、当該列車の運転士や車掌の乗務中の仕草や乗務態度をチェックし、当該乗務員の所属する現場管理者へ報告をしている』という旨の話がされている。」との報告が地本へ数件寄せられています。



それって裏面監査じゃないの!?

そもそも、安全性の向上に向けて行うことが目的ならば、日々の乗務における様子や仕事をチェックし、必要ならばその場で指導する為に添乗というものがあるはずです!!

乗客として列車を利用しているのかもしれませんが、その内容を聞く限り、乗客に紛れ込み、身を隠して乗務員を監視している事に他なりません。仮に、乗客として列車を利用していた際に乗務員に何か問題があるのならば、同じJR社員としてその場で注意喚起するべきではないでしょうか?!

問題があるならばその場で直接注意、指導するべきだ!

その場では注意せず、その後に当該社員の管理者へ連絡・報告することは、もはや『密告』であり、安全で質の高いサービスの提供を目指す会社のやることなのでしょうか?!

忘れてはならない!JR 福知山線脱線転覆事故の背景

2005年4月25日に発生したJR 福知山線脱線転覆事故の背景には、会社による行き過ぎた社員管理体制があったとされています。「日勤教育」という言葉がクローズアップされがちですが、その当時のJR 西日本の職場風土こそ異常な管理体制であった事を忘れてはなりません。

JR 福知山線脱線転覆事故の直前に信号違反が発生した際には、当時の職場では、「基本動作の実態調査」と称し、「客室添乗を重点的に実施する」としました。つまり、運転室に添乗するのではなく、客室に添乗し全部チェックするといういわゆる裏面監査が実施され、極めつけは客室添乗で指摘を受けた者に対しては、厳しい日勤教育をするというものです。

裏面監査の行きつく先は「安全」ではなく、「重大事故」であることを私たちは教訓にし、安全で働きやすい職場を私たちのたたかいでつくりあげましょう!

**安心して働ける職場を
JR東労組からつくりあげよう!**